

教育目標 「 知性豊かに 心さわやか たくましく生きる 」



志

学校だより

R4 .3 .15

四日市市立内部中学校 第 45 号

新年度に向けて

3月7日(火)に3年生が卒業して、早くも一週間が経ちました。生徒たちのいない教室前の廊下を歩いていると、さみしい気持ちになります。学校は多くの生徒たちがいてこそだと、しみじみと感じています。

それでも、在校生が普段と変わらずに授業や部活動等に取り組んでいる姿を見ると、ほっとします。それだけでなく、3年生が在籍していた時よりも、顔つきや行動が



遅しくまっているように感じます。当たり前のことですが、4月には2年生は3年生に、1年生は2年生になります。それに向けての自覚を持って学校生活を送ってくれているのでしょう。

生徒たちは、新年度に向けて着実に動き出しています。卒業生から内部中学校の良さを引き継ぎ、新入生が安心して過ごせる学校となるよう、頑張ってくれています。

コロナウイルスの感染者数が少なくなってきました。一日も早く感染症の状況が収束して、生徒たちが、授業や部活動などの様々な場面において、思う存分活動できることを願っています。それは、多くの体験や様々な他者との関りが、生徒たちを豊かに成長させてくれるからです。

マスクの着脱について、「3月13日からは個人の判断が基本となります」と、厚生労働省より示されていますが、学校においては、「3月末まではこれまでの感染症対策を継続する」と、教育委員会から指示が出されています。今しばらくの間、ご理解とご協力をお願いいたします。

『あすなろう鉄道』について学ぶ

3月10日(金)の6限目に、『四日市の交通と街づくりを考える会』の宗像基浩さんに来校していただき、1年生が『あすなろう鉄道』の歴史や地域の暮らしについて学びました。

内部線と八王子線は、大正初期に三重軌道が開業された、とても歴史のある鉄道です。その後、三重軌道の路線を廃止して、新たに設立された三重鉄道が軽便鉄道として開業しました。昭和に入ると、現在の近鉄名古屋線の前身である伊勢電気鉄道に路線が譲渡されました。その後、三重電気鉄道を経て、昭和40年に近畿日本鉄道へと吸収合併されました。平成27年から四日市市が鉄道施設や車両を保有し、新会社『四日市あすなろう鉄道』として運営されています。

普段何気なく利用している鉄道が、いかに私たちの生活に関係しているか。鉄道を存続させるためには、どのようなことが必要かなど、様々な内容について考える良い機会となりました。

生徒たちは、あらためて地域の鉄道である『あすなろう鉄道』に興味を持てたようです。

本の紹介

今回は、『ふつうに生きるって何?』井出 英策 著〔毎日新聞出版〕を紹介します。

「今、頑張らないと、ふつうの生活を将来送ることができなくなるぞ」、大人が子どもに言うよくある言葉です。でも、『ふつう』って何でしょうか?何か基準があるのでしょうか?『ふつう』は正解なののでしょうか?

この本は、主人公の目を通して『ふつう』とは何か?「今頑張って得られる将来」とは何か?今を楽しんで生きてはいけないのか?など、子どもだけでなく、多く大人たちも見落としている「今を生きる」ということの大切さを学ばせてくれる一冊です。

主人公の愉太郎（ゆたろう、小学5年生）は、気持ちの素直な男の子です。母親は愉太郎の将来に多くを望んでいる訳ではありません。ただ、将来『ふつう』に生きていけるようになってほしいと願っています。家庭の事情により生活は楽ではありませんが、母親は必死で働いて、愉太郎を何とか塾に通わせています。さて、『ふつう』とは何でしょうか?

愉太郎は勉強にあまり熱心ではありません。友達の多くが塾に通っており、放課後に遊ぶ相手がいないので、何となく通っています。また愉太郎は、自分が「勝ち目のない競争」をしていると感じています。裕福な家庭の子にはかなわないと思っていますし、努力だけではスタートラインにさえ立てないことだってあるのだと感じています。『ふつう』とはいったい何でしょうか?

愉太郎は母親に質問をぶつけます。「自分はなぜそんなに頑張らねばならないのか」と。そもそもし今の時代は、よい学校や会社に入っても、将来が安泰なわけでもないことも知っています。

母親は当惑します。自分自身、良い学校を出ているのに、今とても苦労しています。「自分は息子にあてのない『ふつう』を押し付けているだけではないのか?」と悩みます。

これ以上は、ネタバレになってしまいますので、詳しい内容の紹介は控えたいと思います。

この本のカバーの裏に、『“ふつう”の日々の“ふつう”のできごとに「意味」を見つけられるようになってほしい。』と書いてあります。みなさんにも、本当にそれができるようになってほしいと思います。しかしそれは、実際にはなかなか難しいようにも思います。しかし、『ふつう』とは何かについて、じっくりと考えることは、毎日を生きる大きなヒントになると思います。

卒業式で3年生に話をしたのですが、人は一人では生きていけません。様々な他者と助け合ったり、協力したりしなければ生きていくことはできません。時には他者に迷惑をかけることもあるでしょう。しかし、全く誰にも迷惑をかけずに生きていくことは誰にもできません。お互い様のことですから、そうした時は「まごころ」を持って、申し訳なく思ったり感謝したりすれば良いのです。そして、世の中に様々な人がいるということは、それだけ様々な『ふつう』があるということです。それを慮れる人は、きっと心豊かに日々を過ごすことができることでしょう。

※この本は図書室にもありますので、自分の未来のために、是非読んでみてください。

